

原発がこわい女たちの会
http://blog.zaq.ne.jp/g-kowai-wakayama/

《 2014年03月 | トップ | 2014年05月 》

検索

2014年04月30日(水)

検索

原発再稼働に反対します

アーカイブ

現在、日本の原発は1基も稼働していません(※)。
 原発がなくても電気は余っています。しかし、そのことを知らない人も少なくないようです(例えばブログ
 1月14日:新成人にたずねました)。
 ※2012年5月5日以来。関西電力大飯原発が一時稼働したが、2013年9月15日より再びゼロに。

原発停止や廃炉で困るのは私たち消費者ではなく電力会社のほうです。彼らは、停電になるぞ、電力料金を値上げするぞ、国の経済が立ち行かなくなるぞ、と私たち国民を脅してきました。でも、大事故をおこした福島(と使われる多額の税金)だけを考えても、再稼働をやめて脱原発を選ぶことが子どもたちの未来のために必要ではないでしょうか。新基準の下で原発再稼働の動きが慌ただしくなっているいま、わたしたちにできること、やらなければならないことはいっぱいあると思います。ほんの1, 2ですが挙げてみます。

●再稼働反対の意見広告に参加しませんか

原発の危険性、非経済性を訴え、世論喚起と脱原発の実現を求めます

朝日新聞大阪本社版 6月下旬掲載予定
 賛同者は、
 団体1口:5,000円
 個人1口:2,500円
 取扱団体:意見広告市民の会
 (枚方市川原町1-5 ストップ・ザ・もんじゅ気付)
 本会の松浦雅代も呼びかけ人となっています
 ○詳しくは↓のサイトから
<http://www.page.sannet.ne.jp/stophemonju/>

●再稼働反対の署名もあります

福島原発事故はいまだ収束せず、危険な状態です！
 川内原発も玄海原発も、再稼働を認めないでください
 九州の原発の再稼働を認めないよう九州各県知事(沖縄を除く7知事)に訴えます。
 なお、川内原発は再稼働第一号になりそうだとわれています。

第3次集約:2014年5月末日
 署名集約先:さよなら原発！11.10九州沖縄集会実行委員会
 署名取扱団体:原子力資料情報室
 ○署名は↓から(オンラインor 用紙)
<http://www.enic.jp/5782> 原子力資料情報室

(sora)

2014-04-30 | 記事へ | コメント(0)

2014年04月26日(土)

今中哲二さんを迎えて—女たちの会27周年

「原発がこわい女たちの会」は3月29日で結成27年を迎えました。チェルノブイリ原発事故の11か月後、1987年のことです。その2週間ほど前に有志が集まって、会の名称や運営方法を話し合いました。古いメモが出てきました。たしか汐見恵さんが司会をされていて、「原発がこわい女たちの会」か、「原発こんといて女たちの会」どっちがいいかな～となって、「原発がこわい」は私たちの気持ちを率直に表しているし、インパクトがあつてよさそう、とこれに決まりました。同席されていた汐見医師が「こわい女ねえ、ふ、ふ、ふ…」と含み笑いされていたのをおぼえています。

鮮明な記憶なのに、あれからもうそんなに時が経ったのかという思いと、それでもまだ続けなければならないのかという思いが交錯します。
 1988年、日高町も日置川町も住民が原発を拒否しました。和歌山に原発こんといて、はいちおう達成し

- 2016年11月(2)
- 2016年10月(1)
- 2016年09月(1)
- 2016年08月(2)
- 2016年07月(4)
- 2016年06月(2)
- 2016年05月(1)
- 2016年04月(3)
- 2016年03月(2)
- 2016年02月(3)
- 2016年01月(2)
- 2015年12月(4)
- 2015年11月(2)
- 2015年10月(1)
- 2015年09月(3)
- 2015年08月(3)
- 2015年07月(2)
- 2015年06月(2)
- 2015年05月(2)
- 2015年04月(2)
- 2015年03月(2)
- 2015年02月(2)
- 2015年01月(5)
- 2014年12月(3)
- 2014年11月(2)
- 2014年10月(2)
- 2014年09月(2)
- 2014年08月(1)
- 2014年07月(2)
- 2014年06月(1)
- 2014年05月(3)
- 2014年04月(4)
- 2014年03月(3)
- 2014年02月(1)
- 2014年01月(3)
- 2013年12月(4)
- 2013年11月(1)
- 2013年10月(3)
- 2013年09月(5)
- 2013年08月(1)
- 2013年07月(3)
- 2013年06月(5)
- 2013年05月(3)
- 2013年04月(2)
- 2013年03月(6)
- 2013年02月(2)
- 2013年01月(3)
- 2012年12月(2)
- 2012年11月(1)
- 2012年10月(2)

ました。しかし、全国的には事態は好転してないどころか、ますます酷いことになっています(現段階では原発はすべてストップしているけど)。福島原発事故は、その最たるものです。

さて、ここからが本題。

結成27年のつどいは、4月20日(日)今中哲二(京大原子炉実験所助教)さんをむかえて講演会を行いました。25年のつどいでもお願いしたので、2年ぶり。今回のテーマは「放射能汚染への向き合い方—福島県飯館村の初期外部被曝調査を終えて」、古くからのメンバーも駆けつけて今中先生のお話を聴きました。



講演については、小谷英治さんがユーチューブにアップして下さっています。

<http://youtu.be/pKBrJB2R64I>

「今中哲二講演 放射能への向き合い方」

まず、福島で3年前に起きたこと、として

地震と津波により全電源喪失から炉心冷却不能、燃料棒露出、メルトダウン、メルトスルーに至る原子炉破損の過程と、水素爆発、放射能放出による環境汚染、という事故直後の数日間をご自身のとらえ方で追ひ、また格納容器が爆発せずどうか持ちこたえたこと、使用済み核燃料の入った4号機燃料プールが無事だったことは、まったく不幸中の幸いであったと、チェルノブイリ原発事故との比較をまじえながらの話しに、あの過酷事故をあらためて復習することになりました。

今回のメイン、飯館村初期被曝評価プロジェクトチームとして行われた村民への聞き取り調査については、配付資料やネット上に詳しく解説されていますので、こちらをご覧くださいと思います。

<http://www.rri.kyoto-u.ac.jp/NSRG/etc/Kagaku2014-3.pdf>

<http://iitate-sora.net/report>

放射能汚染が生じた3月15日から計画的避難区域に指定されて村外に避難する7月末までの、村民1812人(全体の3割)の外部被曝量を見積もったものです。飯館村は周知のとおり、福島原発から30キロも離れていたが、放射能ブルームが到来しそこへ降雪によって地表に沈着し著しい放射能汚染を来してしまった地域です。

事故後の放射能汚染や被ばくの問題は、福島や東日本では重大な関心事です。地域差があっても事なかれ主義の人もありますが、食べ物ひとつ取ってもグローバルな時代には、全国どこにあっても回避しようがない面もあります。自分とは関係ない、では済まされないのです。

「放射能汚染に対してどう対応するのか、それぞれの人が判断し選択して現実にはどこかで折り合いをつけてやっていくほかない、そのための知識と知恵は提供します」

これが、今中さんの一貫した姿勢といえます。

普通の人びとは、これまでベクレルもシーベルトも知らずに済んだが、福島後のいまは、被ばくリスクやさまざまな情報を検討して、それぞれの人がどこまで被ばくをガマンするのか、自分で選択しなければならなくなったこと、
 家族の条件、個人の価値観などによってガマンできるところは異なるのだから、一律には言えない自分が納得して判断し選ぶほかない。あなたが決めることで、だれかが替わって決めることはできませんよ、というのです。ただし、
 ・東電の不始末による被ばくは1マイクロシーベルトたりともイヤだという権利はある、
 ・もしそれが自分(今中)の家族だったらこうするだろう、
 という示唆は残されていますが。

その判断材料となるべく話された事を、以下、私なりにピックアップしてみます。

○自然界に存在する自然放射線やかつての核実験の影響、医療による被ばくもある。福島由来による被ばくについては、ガマンの折り合い方を考える目安の一つは年間1ミリシーベルト。子どもの被ばくはできるだけ少なく！

○被ばくによるリスク。ヒロシマ、チェルノブイリのような急性放射線障害はなかったが、後々になってあらわれるガン・白血病、先天性異常などの晩発的影響が懸念される。現に福島では子どもの甲状腺がん(の疑いを含め)が増加している。

○必要な正しい情報は伝わりにくい。事故直後はまったく情報がなく、当局は隠すというより「メルトダウン」状態で、防災システム(人)が機能せず。わからない、判断できない、責任を負いたくない、…なかには山下発言のような情報操作も。

※なぜか急に福島県立医大の副学長になった山下俊一氏が健康アドバイザーとして「放射能はこわくありません、ここに笑っている人には放射能は来ない」など福島県内で講演。

○除染は必要か。木を倒し表土を剥いで袋に詰めてそこら辺に保管。除染という名の環境破壊ではなからうか。たとえば飯館村人口6000人に除染予算は3000億円計上。帰村政策推進のため？除染はオイシイから？もっと効果的な除染や他に急いでやるべきことがありそうだ。

2012年09月(2)

2012年08月(2)

2012年07月(4)

2012年06月(4)

2012年05月(3)

2012年04月(1)

2012年03月(1)

最新コメント

[日韓の原発事情、国 by 民 守 正義(08/21)

そもそも、我が和歌 by 清水俊幸(07/25)

コメントありがとう by sora (12/05)

突然すみません。東京 by 里美(11/22)

10/26と11/29のチケット by 角谷(10/23)

starさんコメントあり by sora (09/14)

このブログを読むまで by star(09/13)

こんにちは。メッセ by わんこ(04/15)

現在稼働している大飯 by star(04/09)

廃炉産業を起こしてほ by kaziwarayosiyuki(03/14)

カレンダー

< 2014年04月 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4 5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

最新記事

琵琶湖が危ない 老朽原発 美浜3号も廃炉に！ 11・13

琵琶湖集会(11/15)

汐見文隆先生、ありがとうございました(11/08)

原発がこわい女たちの会

ニュース99号発行(10/12)

高速増殖炉もんじゅ廃炉へ (09/27)

老朽原発・美浜3号機は廃炉

に！パブコメを出そう(08/28)

ピースボートで韓国古里(コ

リ)原発を見学してきました

(08/21)

熊本地震の経験から原発の

耐震性見直しを要求し、25

団体で共同声明を出しまし

た(07/22)

老朽原発・関西広域連合へ

要望書と和歌山県との話し

合い(07/17)

原発のない社会を投票で示

そう！(07/05)

○私たちが暮らすにはどれだけのエネルギーが必要なのか。日本のエネルギー需要は、1960年代の高度成長の始まり期と80年代後半のバブル期に急増している。原発が無かった70年頃でじゅうぶんやっていたのではないかと(これ、私も実感します)？ほんとに大事なのは一体何なのか、私たちの暮らしを考えてみたい。

(sora)

原発がこわい女たちの会
ニュース98号発行(07/04)

SCHEDULER

ナビゲーション

トップ

RSS

ID:

PASS:

サイト管理者

[ログイン](#)

SSLモードでログイン

BLOGariは2017年1月末
サービス終了します

2014-04-26 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)

2014年04月18日(金)

大間原発予定地ど真ん中の「あさこはうす」から

本州最北端・青森県大間町から、あさこはうすの主・小笠原厚子さんが来和されました。4月13日午後、和歌山市の中央コミュニティセンターで交流会が開かれたので参加してきました。



和歌山の西郷章さん、寺井拓也さんたちが昨年9月に大間現場を訪ねたおり小笠原厚子さんと出会いがありました。西郷さんによれば、「原発を立地させないために連日奮闘しておられる厚子さんに、たまには息抜きも必要だと考えて、娘さんとともに和歌山に招待しようという約束」を果たされたものです。

ところで、建設中の大間原発は、燃料の全部にMOX(プルトニウムとウランの混合燃料)を使用することを目指すフルMOX原子炉です。

使用済み燃料から取り出したプルトニウムを再び原子炉で再利用するMOX燃料運転(プルサーマル)でも燃料の3分の1までであり、100%というのは商業炉では世界でも例がありません。これは、国内にたまり続ける最悪危険なプルトニウムの処理に困って計画されたといえます。破綻した「核燃料サイクル計画」をカバーするものなのです。

大間原発、およびそれと深いつながりのある六ヶ所村再処理工場(トラブル続きで停止中)は、現在、新しい規制基準を踏まえた設置変更許可申請の準備中ですが、これらの稼働は大きな問題をはらんでいます。大事故の危険性を抱え、いったん事故が起きれば壊滅的な被害を受けること、たとえ事故が起きなくても、「原発1年分の放射能を1日で出す」(再処理工場は)といわれるほど、大量の放射能が環境中へ放出されます。

このため反対運動が全国的に展開されてきました。最近では、函館市(大間原発と最短23キロの距離にある)が、国とJパワーを相手に大間原発の建設差し止めなどを求めて提訴したのは記憶に新しいところです。原発をめぐる自治体が国を相手に起こす全国初の訴訟となります。

もう一つ世界でも例のないこと、それがあさこはうすの存在です。
Shut泊「あさこはうすレポート」<http://japansafe.net/asako.html>

から引用させていただきます。



(注; 白い部分が大間原発用地130 ha)

130haの原発用地の中央に1haの飛び地、熊谷あさ子所有の農地がある。
 炉心からたった300メートルのところに個人の農地が存在しながら2008年に工事許可が下りた。
 原発用地内ほぼ中央に個人の土地が存在し、そこに毎日人が通い、郵便が日に100通届き、全国から週に何組か人が訪れる。そこがあさこはうすである。
 このような状況での原発着工は世界に例がない。
 たった一人の女性が農地売却に応じず、想像を絶するような圧力に屈することなく戦い、事業者である電源開発(注; 現・Jパワー)は計画変更を余儀なくすることになり、少なくとも着工を4年間遅らせた。

地図を見てもわかるように、原発用地のど真ん中に居座り、建物の配置も計画変更させる。確かに例のないことです。
 もともと157名いた地権者のうち、ただ1人土地を売らなかった熊谷あさ子さん。電力企業は2億円の札束を積んだが、あささんはこれを拒否。「10億円積まれても売らない」と決意はゆるぎませんでした。まじめに漁に励めば大間の海で生きていける、という信念があったからです。
 (ちなみに、大間は海産物が豊富。ブランド・大間マグロの町でもある)

生前のあささんはたった一人で、脅迫、誹謗中傷、無視、そして札びらの圧力にも体を張って闘ってきました。言い表せないほどの不安やつらさ、かなしみがあつたはず。
 それら一切を引き受けて、お母さんが亡きあとのあさこはうすを守ってきた厚子さん。
 あさこはうすとその敷地1haを、農業体験や動物とふれあいながら子どもたちがのびのびと遊べる楽しい環境として創出する夢を語られました。そうすることで原発反対の意思表示としていきたいのだと。

福島原発事故のあと、「あさ子はよくやったね」「頑張れや」と声をかけてくれる大間の人が増えてきたそうです。たとえ少人数ではあっても、後退してはいないのだから、すごく励みになるというのです。微かにせよ、人としてつながっているということが、うれしいものなのです。
 だから厚さんは次のようにもいいます。
 「大間に暮らして、地域の人びとの内側から草の根で、原発のことを話していきたい、それは頭で話しても伝わらない、心で心を攻めていくしかない。」
 理屈でせめてでも頭上をすべってしまう、大切なのは同じ人間として共感しあうこと、それが前提だよ、ということなのでしょう。
 そんな軸足をもったしなやかさこそが、いま必要とされているのではないか、と思いながら聞きました。

和歌山市の翌日、翌々日は、田辺市、新宮市で交流会がもたれたそうです。
 厚子さん、紀南の温泉につかってゆっくりされましたか？

西郷さんや寺井さんの旅行記については次のブログなど参照のこと
<http://blog.livedoor.jp/wakaben6888/archives/33409077.html>

(sora)

2014-04-18 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)

2014年04月06日(日)

今中哲二氏 講演会再度のお知らせ

フクシマから3年・チェルノブイリから28年
 —女の会結成27年のつどい—
 今中哲二氏(京大原子炉実験所助教)講演会

放射能汚染への向き合い方
 福島県飯舘村の初期外部被曝調査を終えて

○4月20日(日)13:30~16:00
 ○ビッグ愛9階A会議室
 ○参加費 無料
 チラシ [こちら](#)

福島原発事故から3年が過ぎました。
 放射能汚染により、いまだに、14万人以上の人々が、住み慣れた家と大切な故郷を追われて暮らしています。長引く避難生活の苦しみの中で亡くなった「震災関連死」は1600人を超えました。小児甲状腺がんなどの健康被害も続出しています。

福島原発事故の原因は不明。メルトダウンした1~3号炉の内部がどうなっているかは誰にも分かりません。水で冷やし続けるしか手がないのです。その上、汚染水の海洋放出は止められません。政府の非常事態宣言は解除されていません。

それでも—再稼働や核燃料サイクルは進められています。福島県では国の帰村政策で避難地域では除染作業が急ピッチで進められています。

チェルノブイリ原発事故の1年後に結成した「原発がこわい女たちの会」は3月29日で27年経ちました。

1986年のチェルノブイリの事故で、放出されたセシウムはまだ半分(半減期30年)にもなっていません。その上にフクシマの放射能放出は3年経て、チェルノブイリと同じ位になったと言われています。子どもたちの未来を考えると、私たち大人の責任は大きいと思います。

今回講演していただく今中哲二氏は、チェルノブイリ原発事故を20年以上にわたり調査・記録して来ました。

→今中著『放射能汚染と災厄—終わりになきチェルノブイリ原発事故の記録』明石書店(2013)に詳しい

2011年の福島原発事故後は、真っ先に福島県飯館村に赴き、放射能汚染の実測調査を続け、政府や行政が情報をひた隠しにする中、正確な測定数値と情報を発信してきました。

昨年「飯館村初期被曝評価プロジェクト」を立ち上げ、福島県に通って飯館村民の聞き取り調査を実施しました。事故直後から計画的避難区域指定により村外に避難する7月末までに、村民がどれだけ影響を受けざるを得なかったか、外部被曝量を明らかにしようとした大変貴重なものです。

是非、今中哲二氏の講演をお聞きください。

原発がこわい女たちの会世話人代表 松浦雅代

2014-04-06 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#) |

RSS 2.0